

# 名張市史だより

NABARI HISTORY LETTER No. 17

令和2年2月10日

●編集発行●

名張市郷土資料館(教育委員会文化生涯学習室)  
〒518・0734 名張市安部田2270番地

名張錦生ふるさとパーク内  
☎0595・64・7890

## とうしようだいじ 唐招提寺と名張

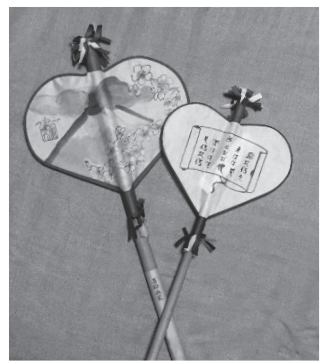
奈良市にある唐招提寺では、毎年5月19日に「うちわまき」という行事が行われています。この「うちわまき」で名張の女竹(めだけ)が使われていることをご存じでしょうか。

唐招提寺は、奈良時代から続く南都六宗の一つである律宗の総本



うちわまきの様子(唐招提寺)

山です。5回の航海を試みて失敗し、6度目の航海の末、来日を果たされた鑑真和尚によって、天平宝字3年(759)に戒律を学ぶ人たちのために創建されました。しかし、時が過ぎる中で、平安仏教や鎌倉仏教の台頭もあり、奈良時代の戒律は衰退していくこととなります。そんな中、鎌倉時代の中頃に戒律を復興させたのが覚盛上人(かくじょうしようじん)です。覚盛上人は、寛元2年(1244)に唐招提寺へ入寺、戒律の復興に尽力し、唐招提寺中興の祖と仰がれました。この覚盛上人には、蚊に刺されている上人を見た弟子が、その蚊をたたこうとしたところ、「自分の血を与えるのも仏の道である。」と殺生戒を守り、弟子を諫(いさ)めて蚊を殺さなかったという逸話が残されています。その徳を偲んだ法華寺(ほっけじ)の尼僧が、



ハート形のうちわ

覚盛上人が亡くなったときに蚊を叩かず追いかけていたのが「うちわまき」のお供えしたのが「うちわまき」の始まりとされています。

「うちわまき」では、覚盛上人の命日に執り行われる法要「中興忌梵網会(ちゅうこうきぼんもうえ)」で、宝扇と呼ばれるハート形のうちわを数日本境内でまかれます。



竹を送る会による女竹の奉納

近年、このハート形のうちわに使われる女竹が不足しており、そのことを名張市出身の第88世唐招提寺長老(住職)である西山明彦(にしやま みょうげん)さんから聞いた比奈知地区・滝之原地区

の人たちが、「新たなまちおこし」として平成23年11月に「唐招提寺に竹を送る会」を発足させ、毎年、女竹を名張から奉納するようになりました。

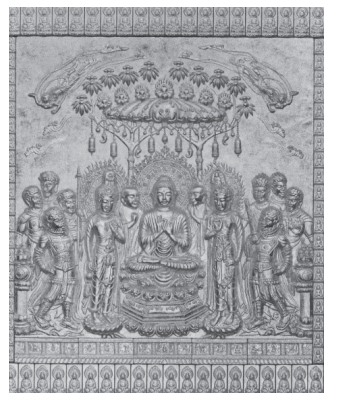
唐招提寺と名張の関係は深く、唐招提寺が所蔵する博仏(せんぶつ)と名張の夏見廃寺から出土した博仏は同じ型からつくられたものであることが分かっています。博仏とは、仏像の型に粘土をつめ、取り出した粘土版を焼き上げ、表面に金箔をはって仕上げたものです。

夏見廃寺は、天武天皇の皇女である大来皇女(おおくのひめみこ)が父の菩提を弔うために建立したと言われている寺院です。醍醐寺本薬師寺縁起に「大来皇女、最初の齋宮なり、神亀2年(725)を以て浄(御)原天皇のおんために昌福寺を建立したまう。夏見と字す。もと伊賀国名張郡に在り。」と記載された箇所があり、その昌福寺が夏見廃寺でないかと言われています。唐招提寺は鑑真和尚が新田部親王(にいたべしんのう)の旧邸を賜り、創建された寺院で、夏見廃寺を建立した大来皇女と新田部親王は姉弟になります。

これまで唐招提寺が所蔵する博仏は、唐招提寺に代々伝わってきたものではなく、夏見廃寺の出土



唐招提寺所蔵博仏



大形多尊博仏

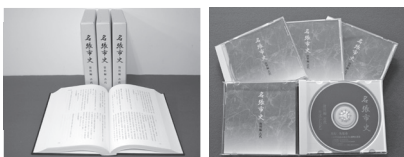
品が何らかの経緯で唐招提寺に寄進されたものであるといわれてきました。しかし、2012年に行われた唐招提寺旧開山堂の発掘調査で、唐招提寺の下層にある新田部親王時代の地層から部分的に金箔と漆が残った博仏の一部が発見されたことにより、唐招提寺の博仏は、新田部親王の邸宅にあったもので、当初から唐招提寺に代々伝わってきたものと確認がされました。

奈良時代から続く唐招提寺と名張との縁に、女竹の奉納という新たな縁が平成の時代に誕生してから10年が経ちました。奈良と名張が持つ縁に思いを馳せながら、今回紹介した寺社などを訪れてみてはいかがでしょうか。

女竹(めだけ) : 直径1~3cm、高さ2~8mの笹。別名ナヨタケ、シノダケとも呼ばれています。

第1巻「名張市史 資料編 考古」  
第2巻「名張市史 資料編 古代」

書籍版…5,000円、CD-ROM版…1,500円



「おきつもの名張今と昔」  
800円



好評販売中。

販売場所  
郷土資料館または、  
市役所3階文化生涯学習室